

S M B C C U P

JAPAN KID'S
TAG RUGBY

F R I E N D S H I P

SMBCカップ 第19回全国小学生タグラグビー大会

北海道大会
実施概要書

令和4年
一般財団法人 北海道ラグビーフットボール協会
普及育成委員会

目次

大会概要（全国大会）	P. 3
北海道大会実施要項	P. 4 P. 5
大会規則	P. 6 P. 8
大会競技規則	P. 9 P. 10
大会実施要項補足	P. 11
大会規則・競技規則補足	P. 12 P. 14
感染症予防について	P. 15 P. 16

■北海道大会実施に関するお問合せ
大会事務局 原田／旭／志賀
各支部委員を通じてご連絡ください。
Email: tag01540@gmail.com

大会概要（全国大会）

大会名称 SMBC CUP Japan Kid' s Tag Rugby Friendship
SMBCカップ 第19回全国小学生タグラグビー大会

目的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主催 (公財)日本ラグビーフットボール協会
主管 関東ラグビーフットボール協会
関西ラグビーフットボール協会
九州ラグビーフットボール協会
各都道府県ラグビーフットボール協会

後援 スポーツ庁、朝日新聞社

特別協賛 SMBCグループ

協賛 株式会社BLK JAPAN、株式会社シミズオクト

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会、タグラグビー標準競技規則をもとにした大会規則とする。

出場資格 小学生4～6年生（日本の学期制による）原則1チーム・7～10人とする。
ただし、1チーム6人以下の場合は主催者に相談すること

大会方式

- ・全国大会
- 期 間 2023年2月25日（土）・26日（日）（予定）
- 会 場 熊谷ラグビー場（予定）

今回の大会は、新型コロナの感染拡大の影響により、これまでと同等規模の大会を実施することが困難であると思われる。感染状況や医療状況などを十分に考慮し、プレーヤーの安全を確保できるよう専門家とも検討を重ね全国大会の実現を目指していく。

（参考）

- ・公益財団法人日本ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト内タグラグビーサイト
[https:// tag.rugby-japan. jp/](https://tag.rugby-japan.jp/)
- ・(8/17更新) SMBCカップ 第19回全国小学生タグラグビー大会 開催およびSMBCグループの特別協賛決定のお知らせ（大会趣旨、各地域・支部予選の日程等）
[https://www.rugby-japan. jp/news/51452](https://www.rugby-japan.jp/news/51452)

北海道大会実施要項

- 大会名称 第19回全国小学生タグラグビー大会北海道大会 兼
SMB Cカップ 第19回全国小学生タグラグビー大会
- 目的 全道各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。
- 主催 (一財)北海道ラグビーフットボール協会
- 主管 (一財)北海道ラグビーフットボール協会普及育成委員会
- 協力 (公財)日本ラグビーフットボール協会
- 後援 北海道教育委員会 北広島市(予定) 北広島市教育委員会(予定)
- 特別協賛 SMB Cグループ
- 協賛 株式会社BLK JAPAN、株式会社シミズオクト
- 期間 令和5年1月9日(月・祝)
※大会1週間前までに情勢が変わらなければ日程・会場は変更しません。
※ただし、入場制限又は無観客試合となる場合があります。
- 会場 北広島市総合体育館(〒061-1112 北広島市共栄315-2 TEL(011)372-0808)
- 競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。
- 競技方法 支部予選を勝ち抜いた12チームが出場し、次の方式で行う。
①出場チームを抽選で3チームずつの4プールに分け、総当たり戦で1位~3位を決定。
②各プール1位と2位のチームは決勝トーナメント戦へ進出。
③各プール3位のチームは順位戦へ進出。
- 参加資格 (1)小学生4~6年生(日本の学期制による)で編成したチームで、1チーム・7~10人とする。学年の編成内容は問わない。
(2)原則、単一小学校の参加とする。ただし、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、複数校の混成チームでの参加を認める(単一校を主体としてチーム編成することが可能でありながら、混成チームを容認するものではない点に留意すること。)
※支部予選のチーム編成については、支部普及育成委員が各チームの出場要件を満たしていることを必ず確認してください。**資格要件を満たさないチームは全道大会に出場できません。**
(3)参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
(4)帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負うことのできる者であること。
ただし、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任することは構わない。
(5)帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。
ただし、小学校長の承認がなくても帯同コーチの責任において参加することも可能とする。
(6)参加登録費(保険料含む)を納めること。
(7)上記参加資格の他、新型コロナ感染防止対策の観点から必要な手続きが行われていること。
- 罰則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。
- 安全対策 (1)大会期間中は主催者が所定の救急指定病院を定める。
(2)大会期間中は、主催者が担当医師及びメディカルスタッフを任命する。
ウォーターボーイは各チームの帯同コーチが兼任すること。
(3)試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主催者が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。
(4)大会期間中の保険は主催者でまとめて加入する。ただし、支部予選は各支部で加入するものとする。

- 健康管理 (1) 大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。
 (2) 試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。
 (3) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。
 (4) 本大会の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、下記注意事項を熟読し、健康チェックリストは大会開催日の2週間前から各自運用すること。なお、開催時期の北海道・スポーツ庁・日本ラグビーフットボール協会のガイドラインに従って都度注意事項等を追加することがある。
 例：当日、発熱・咳・咽頭痛などが認められる体調不良者は会場への入場を禁止する。
 試合・練習時以外はマスクをし、大声での応援・会話を禁止する。
 タオル・スクィーズボトル等の共用は避け、参加者が個別に用意すること。
 (5) 支部予選にあつては、それぞれの施設が要求する新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を励行すること。

肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。
 ※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。
 ※北海道内のラグビー普及事業に係るポスター・プログラム等に使用される可能性がある。

- 費用 (1) 旅費交通費の支給はしない。
 (2) 参加費 ￥3,000 (保険料含む)

- 表彰 (1) 優勝チーム、準優勝チーム、3位チームを表彰する。
 (2) その他、各支部予選大会責任者の判断にてチームを表彰することができる。

- その他 (1) 北海道大会の公式戦で使用するラグボールは大会事務局が用意する。
 (2) 北海道大会は全国大会公式試合球と同品質のもの (BLK 提供) を使用する。
 (3) タグベルト・タグはチームで用意することとし、全国大会使用品と同品質 (BLK 提供) のものを推奨する。推奨品以外の用具は事前に大会事務局にて審査を受けること。(道具がないチームへは貸与するので、事前に申し出ること。)
 (4) 各チーム帯同コーチ1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること。

○参加者のみなさまへ

- ・チーム責任者は参加選手の体調管理を行うものとし、大会事務局の発行した健康チェックリストに従い、大会14日前から検温し、当日発熱・咳・咽頭痛などの体調不良者、同居家族や身近な知人に感染が疑われるもの、過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触があるものがいた場合、その選手の大会への参加を見合わせてください。同様に、過去14日以内に職場閉鎖や学校閉鎖があった場合は、その所属する選手の参加を見合わせてください。
- ・当日は体育館側の入り口で受付を行い、大会事務局に参加選手分のチェックリストを提出してください。チェックリストの項目に該当しない選手がいた場合、会場への入場を禁止します。
 (チェックリストは各チームで保管し、大会1か月以内はいつでも提出できる状態にしておいてください。1か月経過後は処分して構いません。)
- ・受付の検温で37.5℃以上の発熱が確認された選手は大会への参加を見合わせてください。
- ・大会中、外部との行き来による感染リスクを防ぐため、一旦受付をした選手は大会終了まで会場からは出られません。(入口を封鎖します) お弁当や飲料は買いに行けなくなるので、あらかじめ十分な量を持って入場してください。保護者の出入りは保護者観覧席・トイレに限りますので、それ以外の場所へは入らないでください。
- ・大会中、試合又は練習時以外はマスクをし、周りとの距離をとって密にならないように気を付けてください。大声で会話・応援することを控え、こまめな手洗い・消毒を心がけてください。

○保護者のみなさまへ

- ・大会当日の朝は必ず検温し、37.5以上の発熱のある方はご来場を見合わせてください。
- ・以下の事項に該当する場合もご来場を見合わせてください。
 - ①体調がよくない場合
 - ②同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
 - ③過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
 - ・会場に来られる方は1世帯あたり1名としてください。
 - ・観戦する場所は保護者観覧席・トイレに限りますので、それ以外の場所へは入らないでください。
 - ・観戦している時はマスクをし、大きな声で会話・応援しないでください。
 - ・こまめに手洗い・消毒を実施してください。
 - ・周りの保護者との間隔をとり(できれば2m以上)、密にならないよう心掛けてください。
 - ・保護者の方の出入りは自由ですが、入場後から選手との接触はできなくなるので予めご承知おきください。
- ・会場都合で「無観客試合」となる場合がございます。場合によっては、試合のあるチームの保護者のみを観戦できるようにすることも検討しており、その場合は試合がない時は駐車場等で待機していただき、試合がある時に限り入退場を認めることとなります。

第 19 回大会 北海道大会 大会規則

1 グラウンド

グラウンドサイズは概ね横 25m × 縦 30m(ゴールラインからゴールライン)、インゴール(ゴールラインからデッドボールライン)は各 5m ずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

★標準的な専用試合コート

ゴールライン		タッチライン		ゴールライン
5m		15m		5m
イン ゴ ー ル		ハ ー フ ウ ェ イ ラ イ ン		イン ゴ ー ル
				25m

2 用具

- 大会期間中に使用するタグボール、ピブスは主催者で用意したものを使用する。
- ボールは 4 号球を使用し、空気圧は 0.5 ~ 0.6kg/cm²とする。
- タグは日本協会規定サイズ(50 mm × 375 mm)とし、各チームで用意すること。
(BLK製品推奨。用具をそろえられない場合は、大会事務局から貸与する。)

3 チーム

- 競技グラウンド内にいる 5 名のプレーヤーと入替可能な 2 名以上 5 名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま決勝大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が 4 名～6 名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。
 - コーチは全道大会の各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。
 - 負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが 5 名以下になった場合、原則、公式試合は行えない。ただし、北海道大会ローカルルールとして試合は認めるが、その場合は不戦敗となる。リーグ戦においては相手チームを不戦勝として勝ち点 3 と得点 5 点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。
- 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- 帯同コーチは成人 2 名とする(そのうち 1 名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること)。コーチは試合中に次のことができる。
 - 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
 - グラウンドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。ただし、プレーヤーの自主性を尊重すること。プレーヤーの「タグ」のコールが聞こえるように大きな声での助言は厳に慎むこと。
 - グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
 - ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。(選手はベンチに戻らない)
 - グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。
- 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。(応援者からのレフリーコールは厳に慎むこと。)
- レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたと判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4 プレーヤーの服装

- (1) プレーヤーの服装については以下のとおりとする。
 - ①運動に適した服装(学校体操着など)とし、運動靴またはトレーニングシューズとする(靴底が黒いものは不可)。また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局に問い合わせること。
- (2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。
 - 1 髪留め(ゴム製)
 - 2 めがね(試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを着用することが望ましい)
 - 3 ビブス(主催者が用意したものに限り)
- (3) 以下の物については着用を認めない。
 - 1 手袋(タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため)
 - 2 ギブス等医療装具(着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから)
 - 3 その他、タグラグビーをプレーする上で必要のない物

5 選手の入替え

- (1) 入替は以下の時に何度でも可。
 - 1 ポイント(トライ)後(支部予選において、前半のみの試合の場合は試合時間の半分を経過したとき)
 - 2 ハーフタイム開始時
 - 3 負傷でゲームが中断した時
- (2) 入替は帯同コーチが**交代を管理するサブコントローラー**に申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない(時間は継続)。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備すること。**サブコントローラーを介さないで行われた入替は認められない。この場合、ゲームを止めた地点で相手側のフリーパスから再開する。**
- (3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態に戻ることはできない。

6 試合時間

- (1) 試合時間は前半 5 分ーハーフタイム 1 分ー後半 5 分とする。
- (2) プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行った後にチームから給水を行える。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。
レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたりと判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

7 レフリー

- (1) マッチオフィシャルは 4 名(レフリー1 名 アシスタントレフリー(予選においてはタッチジャッジ)2 名、サブコントローラー1 名)とする。※北海道大会ローカルルールとして、主催者の判断によりアシスタントレフリーをタッチジャッジに代えることができる。
- (2) レフリー及びサブコントローラーは主催者が指名する。アシスタントレフリー2 名については、協会登録レフリーまたは全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。
※予選ではアシスタントレフリー2 名に代わり、全参加チームの帯同コーチの中からタッチジャッジ 2 名を指名する。
- (3) レフリーはグラウンド内で判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。タッチジャッジはこの限りではない。
- (4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。
 - 1 レフリーの判定の補佐。
 - 2 選手の入替えの補佐。
 - 3 負傷者のための試合停止の要請。
 - 4 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。
- (5) サブコントローラーはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。
 - 1 選手の入替の管理(全員出場の確認を含む)
 - 2 得点の確認
 - 3 チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告及びレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。
- (6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

- (7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。
- 1 プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
 - 2 プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。
レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

8 試合時間の管理と試合の記録

- (1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。
- (2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。
- (3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行うことができる。

9 試合終了(ノーサイド)

試合終了(ノーサイド)はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

11 北海道大会における予選リーグ戦、決勝トーナメント戦

詳細は以下のとおりとする。

(1) 予選リーグ戦

- 1 4ブロック、各3チームによる総当り戦方式とする。
- 2 試合の結果に応じて、チームに勝ち点を与える。勝ち点は、勝ち 3 点、引き分け 2 点、負け 1 点、棄権 0 点とする。
- 3 不戦勝には勝ち点 3 と得点 5 点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。
- 4 決勝トーナメントの進出は、各ブロックの総勝ち点 1 位の4チームと総勝ち点 2 位の4チームの計8チームとする。
- 5 ブロック戦でポイントが同数のチームが複数出た場合は下記の順で順位を決める。
 - (ア) 直接対戦における勝者チーム。
 - (イ) ブロック戦における総得失点差の大きいチーム。
 - (ウ) 主催者の定める方法による抽選。(試合終了時にコートに立っていた選手 5 人がそれぞれトランプのカードを引き、合計数の大きい方のチームを勝者とする。※裏返したまま引き、同チーム内でシャッフルしてから開くこと。)
- ⑥ 各ブロックの総勝ち点 3 位のチームは順位戦に進出する。

(2) 決勝トーナメント

- 1 優勝、準優勝、3位を決定する。
- 2 決勝トーナメント戦で同点の場合は下記のように勝者を決定する。
 - a 主催者の定める方法による抽選を行う。
 - b 決勝戦では両チーム優勝とする。延長戦等は行わない。

第19回大会 北海道大会 競技規則

1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ピブスについて

- (1) チームサイド(ベンチ/コート)は、タイムスケジュールの左側チームが、観客席からコートを見て左側。
- (2) 試合開始時のキックオフは、タイムスケジュールの左側チームから行います。
- (3) ピブスは、**名簿に合わせて**1番から順に着用してください。**(選手の入替えを確認するため、順番を確実に守ること)**
※選手番号とピブスの相違によって選手の入替えが確認できなかった場合は大会規則-3-(1)-①に準じ、不戦敗となります。ピブスの着用の管理責任は帯同コーチにあります。**ピブスの着用が適当でないときは、ガムテープに名前や番号を書いて上着の両肩に貼るなど、サブコントローラーが選手の交代を容易に把握できるように努めてください。**

2 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に一本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。※立っていないプレーヤーはプレーに参加することができません。

3 アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

4 得点[トライ]とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール(ゴールラインを含む)にボールを着けると1点が得られます(「トライ」といいます)。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られたと判断した場合、トライ(「ペナルティトライ」)を与えます。
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
- (4) 次の場合、トライは認められません。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します(タグの回数は継続します)。
 - ①ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
 - ②インゴール直前でタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。
[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。
 - ③スライディングや飛び込んでインゴールに入った。
危険なプレーとみなし、防御側の5mフリーパスで試合を再開します。※北海道大会ローカルルール

5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。

- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
 - 1 タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
 - 2 タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。**※タグを取られたプレーヤーがパスしてからタグを返しましょう。**
- (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。**ただし、インゴールでタグを取られた場合は、ゴールラインからコートの中央へ向かって5mの場所からゲームを再開します。**
- (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れます。

6 オフサイド(反則)

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。

- (1) オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

7 ノックオン・スローフォワード(反則)

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。

- (1) フリーパスは前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われます。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5m下がります。ボールがパスされれば、前に出てかまいません。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います(「5mフリーパス」といいます)。

9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが発生した場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかかわす以外の方法(タグを取られないように手で押さえたり、タグを隠したり、ジャンプしたり、体を90度以上回転させたりすること)で、相手がタグを取るのを邪魔すること。※北海道大会ローカルルール
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

12 その他

競技規則にない状況が発生した場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。

全国小学生ラグビー大会

北海道大会実施要項補足

この「補足」は、全国小学生ラグビー大会北海道大会に出場するチームの指導者、選手、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にラグビーを楽しめる環境を作るため、道内ラグビー人口の拡大を願い、以下についてご理解及び周知いただきたくお願い申し上げます。

1 競技方法について〔日本ラグビーフットボール協会事務局確認済み〕

【経過】

北海道から全国大会へ出場できるチームは、例年2チームである。

第7回までは道内全支部で50チーム前後が毎年参加していたが、皆様の普及活動の成果もあって、第8回以降は60チーム以上、近年は80チーム前後で推移している。これらの北海道の出場チームが多いことから全国大会出場枠の「2枠」が毎年変わらず与えられているが、チーム数が低下した場合は他の普及地域に割り振りされる可能性がある。

全国小学生大会は、学校単位でのラグビーの普及を後押しするための意味を持ち、学校でラグビーの授業を導入したのち、ラグビーを継続していくためのきっかけとして最適な大会であることを再度確認していただきたい。

- (1) 全道10支部のうち、予選参加チーム数の多い支部に上から順に「2枠」を与え、全部で12チームが全道大会に出場できるものとして取り扱っている。※例えば、1支部未開催となった場合は、3支部に「2枠」の権利が発生する。
- (2) 北海道においては、全道大会の出場チームの条件に、「支部予選を勝ち抜いた12チーム」とある。全道大会にふさわしいコンテストを展開するには、支部の代表権(1位、2位)を有するチームが出場する必要がある。この出場権については、北海道普及育成委員会が各種大会の趣旨を踏まえて設定することであり、支部の裁量で決めることはできない。
- (3) 全国大会の出場に関して、北海道大会で「同一支部内から2チーム出場することはできない」との内規があるのは、大会スポンサーが『より多くの地域から全国大会に来てほしい』という願いを反映しての内規である。全国小学生大会の北海道大会では、全国大会に出場する力量を備えたチームを送り出すものとして、各支部から上位チームの出場を求めている。

日本協会事務局に確認したところ、支部レベルでの「内規」の適用は想定していないとの回答があったことから、上位大会への出場チームは純粋に勝ち上がったチームとし、支部独自の運用は厳に慎むこと。

2 参加資格について〔(2)関連〕

参加資格については、小学校の単一校のチーム編成を主としている。普及目的で例外的に混成チームも認めている。過去には「3校以内で構成されたチーム」という制限があったが、第9回大会で北海道から日本協会事務局に「地方開催地では、3校以内の制約があるとチーム編成が難しい」と要望をあげたところ、翌年度にその枠が撤廃された。これは、単一校でチームを構成できないスクール等に配慮されたものである。

しかしながら、近年、全国大会で散見されているのが、スクール等による混成チームの「選抜化」である。

北海道のラグビー普及については、ラグビースクールやスポーツ少年団の協力なしにこれまでの活動や成果は望めなかったといっても過言ではない。とはいえ、単一校で編成できるメンバーを有しながら、混成チームが2チームに振り分けられているのであれば、本来の「単一校によるチーム編成」の趣旨に戻って編成を見直すこと。

全国小学生タグラグビー大会 北海道大会規則・競技規則補足

この「補足」は、全国小学生タグラグビー大会北海道大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解及び周知並びにご指導いただきたくお願い申し上げます。

1 試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3(4)(5)、7(4)(5)〕

(1) レフリー(アシスタントレフリー、サブコントローラーも含む)及び競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対する悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、サブコントローラーへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧ レフリーのコールをすること。

→罰:プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

(2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(3) 退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

- ① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
- ② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

2 タグラグビーのプレーについて

(1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ① ボールを持って自由に動くこと。
- ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
- ③ 空中にあるボールを捕球すること。
- ④ 地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

(2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- 1 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
- 2 ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- 3 ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる〔スローフォワード〕。
- 4 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
- 5 相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- 6 相手のボールを奪う。
- 7 あらゆる種類のキック。
- 8 レフリーのコールをすること。

3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めなければならない。一切の接触行為及び接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為及び接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

1 ボールを持っている時

- ・ 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ・ 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
 - タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために半回転以上回転する。※北海道大会ローカルルール

2 防御するとき

- ・ タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ・ ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
 - タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - 両手を広げて防御をする。
 - タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

4 タグ及びタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- (2) タグを相手に返すときは、**パスをしたのを確認してから必ず手渡しで相手に返すこと**。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。**(返す際に目線を合わせるとよい)**
- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。
- (4) レフリーは、ボールを持ったプレーヤーがタグより先にパスしたと判断した場合、「パス先」または「ノー」とコールする。その場合、アシスタントレフリーはタグをカウントしない。

5 フリーパス時の注意

- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- (2) レフリー及びアシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退及び静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー及びアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

6 選手の交代について〔競技規則1(3)〕

帯同コーチは、選手がわずかな時間のみコート内に立ち、ボールを持ってプレーする機会が与えられずに試合が終わってしまったということがないように配慮すること。大会規則3(1)①にある「出場」の要件は満たしているが、「プレー」とは試合時間が経過している間にコートに立ってボールを操作するか、走るか、タグを取ることである。「後半開始時まで」とあるのは「後半の始めに必ずピッチに立っている」ことを示している。

入替の確認は「サブコントローラーを介してレフリーが認めた場合」としているが、帯同コーチにあっては名簿の番号順にビブスを着用させ、厳粛に交代を管理するよう求める。ビブスの着用が好ましくない場合は、ガムテープに名前を書いて上着の両肩に貼るなど、サブコントローラーが選手の交代を容易に把握できるように努めること。

支部予選にあっては、前後半のない試合の場合は、試合時間の半分を経過した時を目安にレフリーが試合を止めて選手交代をさせるよう配慮が求められる。

【入替の運用】【大会規則5(1)】

- 1 帯同コーチは、試合開始前にコートハーフライン延長上にいるサブコントローラーにスターティングメンバー5人の番号と名前を告知すること。
- 2 サブコントローラーは、名簿と選手番号、ゼッケンが一致していることを確認し、出場する5人の選手名にチェックをつける。
- 3 交代したい場合、帯同コーチは余裕をもって、入れ替えたい選手をコートハーフライン延長上にいるサブコントローラーのところまで連れて行き、サブコントローラーに名前と番号を告げる。
- 4 サブコントローラーは、名簿と選手番号、ゼッケンが一致していることを確認し、入替る選手名にチェックをつける。
- 5 プレーが途切れた時(得点時、ハーフタイム、負傷等によってプレーが止まった時)にレフリーに交代を告げ、入れ替えを完了させるが、サブコントローラーの横を通して出入りすること。ただし、けが人についてはレフリーが認めた場合に限り近くのラインから出ることができる。
- 6 前後半がない試合の場合、大会主催者はレフリーと協議し、試合時間の半分を経過した時点で試合を止め、選手の交代を指示するよう予め決めておくこと。プレーの途中で交代のための宣告がなされ試合が止まった場合は、選手の交代後、タグの回数を継続したうえで試合の止まった地点から、ボールを保持していた側のフリーパスで再開する。



タイムオフ

(例)計時係は、予め決められた時間になったときにブザー等を短く3回鳴らすことでレフリーに時間を伝える。アシスタントレフリーは旗を振ってレフリーに合図する。レフリーはプレーが止まったところで笛の合図とともに「タイムオフ。選手交代」と宣言し、胸の前で時計を止める動作(左図参照)をすることで時間を止める合図とする。(計時係は笛の合図で時計を止める。両コーチはこれまでコートに出ていないすべての選手を入れ替える)
選手交代が確認でき次第、「試合を再開します」と宣言し、笛の合図とともに右手を頭上に伸ばして再開を合図(右図参照)することで計時係は時計を進める。



計時係に停止と再開を指示

7 その他

【抽選について】

抽選による特定の監督又は選手への重圧を緩和する観点から、抽選を1で行わせないように配慮すること。
例えば、チームからそれぞれ5人を選出し、それぞれトランプのカードを引き、その合計数が大きい方を勝者とする。

(誰がどのカードを引いたかわからないよう、同チーム内のカードを一度シャッフルしてから開くこと。)

【感染症予防について】

新型コロナウイルス感染拡大状況によって、大会開催有無を含め、大会規模縮小など、制限を行うことがある。
標準的な感染予防対策は以下を参照のこと。

感染症予防について

「日本協会主催大会開催プログラム」の内容を一部転記させていただきます。

なお、本注意事項は、あくまでも日本ラグビーフットボール協会が主催する大会を対象としており、各支部予選等において大会の開催を計画する際には、本注意事項を参考にしつつ、大会の規模、目的、参加対象、当該地域における自治体（北海道大会においては北広島市）や管轄当局の指導などを十分に考慮しながら、検討及び計画いただければと思います。

※こちらは抜粋になりますので、日本ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト内「2021年5月13日改訂）日本協会主催大会開催プログラム」（<https://www.rugby-japan.jp/news/2021/05/14/50484>）を併せてご確認ください。

1 基本的判断基準

大会開催を検討する際には、以下の条件がそろっていることを基本的判断基準とする。

- ①政府の緊急事態宣言が解除されており、かつイベント開催の自粛要請並びに都道府県をまたぐ移動の自粛要請が解除されている
もしくは、緊急事態宣言等により示される要請に、具体的なイベント開催に対する指針が示されており、当該試合の開催が可能と判断されている
- ②政府や自治体によるイベント開催の自粛要請に、大会規模についての基準や分類がある場合は、その基準に照らしあわせて当該試合の自粛要請が解除されている
- ③大会の会場、宿泊施設等が運営されており、移動手段を含め、大会に必要な環境が確保できる
- ④参加チームの母体が活動を再開している
※学校の場合は休校／施設封鎖等の解除、部活動の再開が行われている
- ⑤参加チームに十分な練習期間が確保されており、選手が身体的に試合に出る準備ができています
- ⑥選手及びチームスタッフ、選手会、選手の保護者など参加者の同意が得られている
- ⑦大会開催のための十分な医療体制・施設が整っている
- ⑧大会共催者・協賛社等の合意確認がなされている
- ⑨予選が必要な大会については、予選大会が実施されている
※大会に応じて、予選方式の変更等を含め、予選大会の内容については検討され、合意されている
- ⑩上記の項目を踏まえた上で、日本ラグビーフットボール協会内の関係部署において大会実施が妥当との判断がなされ、合意されている

2 開催可否の判断時期

大会の開催可否の判断時期については、段階的な判断や判断時期に伴う開催方法の変更等、大会の特性に合わせ、大会により異なる判断が求められるが、以下のような要素を検討し判断する。

- ①試合に必要な最低限の練習期間
- ②関連施設や運営人員と移動手段の確保
- ③各施設や取引先とのキャンセルポリシーに基づく期日

3 開催の場合の大会の開催方法

- ①普及大会及び非興行大会については、政府あるいは自治体等による、イベントの開催に関する制限がすべて解除となるまでは、原則として無観客試合で実施することとする
但し、政府、自治体等によりイベント開催のガイドラインが示されており、それと照らし合わせ、有観客での開催が可能と判断される場合はこの限りではない
- ②無観客試合において、会場内に入場できる関係者の範囲をチーム関係者のみとするか、保護者等も含めるか等の判断については、その時点における状況に鑑みて大会ごとに定めることとするが、極力少人数とすることを検討する
- ③いずれの場合も、後述の「4項」に定める運営方法を遂行できる試合会場における体制を整えることとする

4 大会の運営方法

チームの活動が再開し、試合の準備が整い大会を開催する場合、当然ながらこれまでの運営方法と異なる配慮や手配、意識の徹底が必要になるが、試合会場における留意点としては以下のような点が挙げられる

- ①試合の日の前日あるいは当日に、適切な方法、範囲で会場を清掃する
- ②会場における手指消毒液や体温計等の資材を用意する
- ③アクセディテーション（AD）コントロールなどにより、会場を出入りする人が所定の位置で確実に管理されるようにする
- ④AD保有者に事後的に個別に連絡が可能となるよう、名簿を整備することとし、最低でも各関係者の代表者の連絡先

- を確保し、代表者はADを受領し当日会場にアクセスした個人の連絡先を保有していることを徹底する
- ⑤会場に出入りする関係者は必要最低限の人数とする
- ⑥全ての関係者は以下に従うこととする
- 6-1 選手、チームスタッフ、マッチオフィシャルがピッチ上で活動する場合を除きマスクを着用し、手指衛生のための消毒をすること
 - 6-2 個別の手指消毒液や使い捨てのウェットティッシュを携帯し、使用すること
 - 6-3 自宅及び会場への入場前に検温を行うこと
 - 6-4 不要な会場内の諸室への出入りを行わないこと
- ⑦全ての関係者が会場に入場する際の必須条件として、以下の項目を含む書面での確認を提出する
- 7-1 現在、以下に記載の項目を含め、COVID-19の感染の兆候が一切見られないこと
 - 7-1-1 COVID-19に関係するいかなる症状も直前の14日以内に見られていないこと
 - 7-1-2 生活を共にする家族等にもCOVID-19に関係するいかなる症状も直前の14日以内に見られていないこと
 - 7-1-3 COVID-19の感染者や感染が疑われる人に直前の14日間に接触していないこと
 - 7-2 高校生以下の大会において、出場選手の保護者が大会の参加に同意していること
 - 7-3 大会の医療従事者、及びチームのメディカルスタッフにおいては、直前の14日間にCOVID-19の感染者や感染が疑われる人を診察する際に、全ての感染防止対策を行い、適切な個人防護具（PPE）を着用していること
 - 7-4 医学的知見が必要な分野においては、専門家のアドバイスを仰ぎ、適切に対処する
 - 7-5 会場計画において、以下の点を検討しマニュアルなどに明示する
 - 7-5-1 会場における手指消毒、手洗い場の場所の詳細
 - 7-5-2 会場における人の出入りの管理方法の詳細
 - 7-5-3 会場内における人の動きを最小限にできるように設計された会場計画
 - 7-5-4 飛沫感染を防止するための、選手と関係者に対するガイドライン
 - 7-5-5 可能な範囲で、入り口もしくは、その付近に検温場所を設置して検温を行い、発熱や咳嗽などを認める体調不良の参加者は施設に入場させずに帰宅させ、必要に応じて保健所や医療機関への相談あるいは受診を促すこと
 - 7-5-6 観客や関係者に感染が疑われるものが発見された場合の隔離方法や動線等
 - 7-5-7 感染が疑わしき人物が発見された場合の試合の継続・中断・中止、また、その場合の試合や記録の取り扱いに関するポリシー
 - 7-6 試合後直ちに、適切な方法、範囲で会場を清掃し、ドアノブなどの高頻度接触部位は0.05%次亜塩素酸ナトリウムあるいは70%以上のアルコールを用いて消毒する
 - 7-7 観客を入れて大会再開を行う場合は、以下の点を検討項目とし、その時点の状況に鑑みてポリシーを決定する
 - 7-7-1 一部の座席の封鎖等観客が密接して着席しないようにするための施策
 - 7-7-2 観客入場の際の検温の実施の有無と方法
 - 7-7-3 運営関係者用のマスク、観客用消毒液の数量と確保方法
 - 7-7-4 消毒液の設置場所と管理方法
 - 7-7-5 売店や各種ブースの実施の可否と実施する場合の数、場所、運用方法
 - 7-7-6 観客に感染が疑われる事象が発生した場合の手順と隔離場所の確保
 - 7-7-7 上記の周知徹底方法

(タグ推奨品)

BLKタグ・ラグビー用タグ (Run at Me)
/定価800円(税別)

1セットからご注文可能

納期: 2, 3日

- ベルト1本・タグ2枚
- フリーサイズベルト(マジックテープタイプ) 110cm × 4cm
タグ 37.5cm × 5cm (裏面マジックテープ部 5cm × 2cm)
- カスタムデザインも承っております。お問い合わせ下さい。
- 日本ラグビーフットボール協会推奨用具

株式会社 BLK JAPAN

〒105-0001
東京都港区虎ノ門 4-2-6
第二扇屋ビル 2F
TEL: 営業部 03-3436-5087
Eメール: info@blksports.jp

